

函館湾岸価値創造プロジェクト

【函館湾岸価値創造プロジェクト 会長 布村 重樹 氏】



この活動は、函館湾岸地域の地域遺産の価値について、多様な観点から捉え、価値の普及・啓発、観光振興への適用等を行い、価値創造へと繋げ、地域創生を実現するためのプロジェクトです。プロジェクトチームのリーダーは、函館の地域ブランド化活動に長く関わっている布村重樹氏が務めています。布村氏は、平成21年からがごめ昆布のブランド化活動に取り組み、商品価値上昇等の成果につなげてきました。が

ごめ昆布のブランド化から学んだことを生かして、「函館湾岸価値創造プロジェクト」としてまず着目した地域資源遺産は、函館のコンクリート技術です。

函館の特徴としては、幕末における日本初の開港都市であり、当時の最新の技術が函館に流入しました。人口の急増を支えるため、近代インフラ整備もいち早く行われました。近郊には良質な石灰岩鉱山があり、民間セメント製造の早くから行われ、明治末期には日本最大規模を誇りました。函館には、コンクリートの技術の黎明期を感じることができる構造物が身近にあり、その多くが現役で活躍しています。函館は、コンクリート技術の黎明期のドラマを見て取れる貴重な地であると布村氏は話します。

北海道開発局函館開発建設部は、廣井勇博士が手がけた函館港改良工事に関する情報を有していること等の観点から、プロジェクトチームにメンバーとして参画し、プロジェクト活動を支援しています。

「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録や工場見学ツアーの流行等、産業観光が近年注目されていることから、函館のコンクリート技術を産業観光として活用する様々な取組を進めています。

【プロジェクトチームの主な活動】

- 情報の整理、データベース化
- 情報の冊子化、パネル化
- 現地ガイドの養成（ガイド用教育メニューの開発等）
- 体験メニューの開発（モニターツアーの実施等）
- 魅力のPR（HPによる情報発信、IT活用コンテンツの開発等）



布村氏は、将来的には、既に世界遺産に登録されている他地域との連携により、函館湾岸地域を世界遺産登録に繋がりたいと考えています。